

茶道との出会い

群馬県立沼田女子高等学校2年（群馬県）

杉浦 結衣

「一緒に茶道部に入部しない？」友人からのこの一言がきっかけで私は茶道部に入部を決意した。正直最初は、茶道に対してあまり興味はなく、祖母がしていたから、友人に誘われたからといった安易な気持ちでいた。

私が通っている高校には「邂逅庵」と呼ばれる、県内有数の本格的なお茶室がある。そんな本格的に茶道をしている場に私のように安易な考えで入部した人が本当にお点前をしていいのか、お稽古をしていいのかと最初は不安で仕方がなかった。

しかし、優しい先生や先輩たちが温かく迎え入れてくれたおかげで、私の茶道に対する不安な気持ちは少しずつ消えていった。そして、先輩のお点前を見たことで不安な気持ちが、私も先輩のようになりたいという好奇心へと変わった。

お稽古では、お道具の名前や使い方、歩き方、お茶の点て方など、基礎的なことから始まっていった。最初は間違えることや失敗だらけで、やっぱり私なんか茶道部に入らないほうがよかったと自分を責めてしまうこともあった。それでも私は絶対に茶道を続けたい。その気持ちのほうが強かったのだ。なぜなら、先生や先輩たちへの感謝の意を込めて自分が点てたお茶で恩返しをしたかったからだ。

入部して少したった頃、自分たちがお点前を先生や先輩たちの前で披露する機会があった。私の番が来て、初めは緊張で言葉や手が震えていたけれど、みんなが温かく見守ってくれていたおかげで緊張が和らいでいった。点てたお茶は先生が飲むことになった。先生がお茶を召し上がった後、先生は笑顔で「とても綺麗な緑色ですね。美味しかったです」と言ってくださった。私は、自分が点てたお茶を美味しいと言ってくれたことが本当に嬉しかった。

今年の文化祭で水無月のお茶会が開かれた。2年生になって初めて先生や先輩たちの前以外でお点前をすることとなり、緊張していた。テスト期間があったということもあり、お稽古をする時間があまりなかったが、絶対にお客様に楽しんでもらいたいという気持ちで全力で練習に励んだ。本番当日、想像以上にお客様が多く、緊張で普段よりお点前がスムーズにできなく、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。それでも、お客様は笑顔で楽しそうにお菓子を食べ、お茶を飲んでおり、お客様の一人が「美味しかったよ。ごちそうさま」と言ってくださり、私はその瞬間茶道をやっていてよかったなと感じた。

茶道を始めて1年以上がたった。私は茶道部に入るだなんて入学当初は全く思っていなかったが、友人の一言のおかげで茶道に出会うことができ、先生や先輩、仲間のおかげで茶道を好きになることができた。本当に茶道部に入部してよかったと思っている。

茶道はお茶の点て方を学ぶだけでなく、相手のことを思いやり、おもてなしすることの大切さを学ぶこともできる。茶道には魅力しかないと思う。

私達が卒業したあと、私の通っている高校は統合し、母校となるものはなくなってしまった。

それと同時に世話になっている大切な邂逅庵はなくなってしまうかもしれない。それでも私はこの邂逅庵、そして皆んななどの思い出や茶道に対する気持ちは変わらないだろう。